

Cisco LAN スイッチ

Cisco Catalyst 2950C-24, 2950T-24, 2950G-12,
2950G-24, 2950G-48, 2950G-24-DC

インテリジェント イーサネット スイッチ

大容量コンテンツ・高機密データの拡大を見据えたブロードバンド環境
に対応する次世代標準マルチキャスト・スイッチ



Cisco Catalyst® 2950T-24、2950C-24 及び 2950G スイッチを含む Catalyst 2950 シリーズのインテリジェント イーサネット スイッチは、従来の LAN スwitチングの簡素さを維持しつつ、高度な QoS、レート制限、セキュリティ・フィルタ、マルチキャスト機能などのインテリジェント・サービスを提供する製品ラインです。Catalyst 2950 スイッチと Catalyst 3550 シリーズを組み合わせたソリューションはブロードバンド時代に必要な、ストレスフリーな運用できるよう、ハイレベルのパフォーマンス、信頼性、拡張性を同時に実現する次世代コンセプトを提供します。

Catalyst 2950 シリーズのインテリジェント イーサネット スイッチには、12、24または48の10/100Base T ポートのいずれかの固定ポートをもち、アップリンクとして、2つの固定10/100/1000Base T ポートタイプ、2つの固定100BaseFXアップリンクポートを装備しています。拡張モジュールポートをもつタイプでは、Gigabit Ethernetへの対応を柔軟に行うための2つのGBIC対応ポートを装備しております。それぞれのスイッチは高さ1ラックユニット (RU) であるため、ネットワーク機器拡充やワイヤリングクローゼットへの配備も柔軟に対応できます。

IGMP スヌーピングによるマルチキャスト サービスへの対応

Catalyst2950 スイッチは、IGMP (Internet Group Management Protocol) スヌーピング機能によりネットワーク上のマルチキャスト系アプリケーションを運用・管理する上で優れたパフォーマンスと使いやすさを提供します。ハードウェアによるIGMP スヌーピングは、今までより先はるかに優れたパフォーマンスを実現。ますます増大が予測されるストリーミングなどのマルチキャスト系アプリケーションにストレスなく対応できる機能を提供します。

高度な QoS

Catalyst 2950 シリーズのインテリジェント イーサネット スイッチは、レイヤ2 からレイヤ4 に渡ってきめ細かい QoS (Quality of Service) 機能を提供し、ネットワークトラフィックの分類と優先度付けを確実に実施、最適な方法で輻輳を回避するほか、IEEE 802.1p 標準をベースとした CoS (サービスクラス) 値に基づく分類を実行し、遅延に敏感な音声などのアプリケーションをスイッチ・ファブリックを通して常に迅速に処理します。更に、設定された優先度を維持しながら帯域を提供し、優先度の低いキューにも公平にアクセス権を与えることができる WRR (Weighted Round Robin) スケジューリングを使うと、ERP (Oracle、SAP など) 音声 (IP テレフォニー・トラフィック) および CAD/CAM といったミッションクリティカルなトラフィックを、FTP や電子メール (SMTP) など若干の遅延に影響を受けないアプリケーションより優先させることができます。

Cisco CMS (Cluster Management Suite)

Cisco CMS は、Catalyst 3550、2950、2900 LRE XL スイッチなどに組み込まれている Web ベースのソフトウェアです。スイッチクラスタリング技術により、地理的な距離に関係なくこれらのスイッチを一度に最大16台、単一の IP アドレスで一度に管理できます。すべての Cisco IOS 機能とファームウェアの管理を統合型の GUI 管理インターフェースで行えるため、LAN の監視・管理が容易になります。

